

# 木のすまい新聞

「シリーズあれから2年」



田園風景が広がる自然豊かな土地にたたくY様邸は、まさに理想ともいえる平屋のお家です。

家創りを始められた頃は大阪市に在住、工場地帯が近くお世辞にも環境が良いとは言えない土地でした。ご夫婦とも田舎育ちだったため、できるだけ自然の多い土地に住みたいと希望されていました。ただ、通勤のことや将来のことも考えるとある程度環境が整ったところでないといふ考えがあったそうです。

Y様邸におじやますると広々としたリビングに存在感たっぷり丸太の親父柱が目に見え込んでいます。柱や梁などを現しにした真壁造りのY様邸。天井も床も無垢の杉材がふんだんに使われ、まるでログハウスのような空気感に包まれていました。

「キッチンに立って家事をしているときに、ふと眺められる自然豊かな風景。その手前には無垢材の木の温もりを感じる部屋。この

## 木のすまい仕様の家 自然と共に暮らす平屋のお家

日常の何気ない景色が私にとって大のお気に入りなんです。そう語ってくださった奥様は家づくりに関してとてもこだわりがあり、キッチン背面の収納はご自分で設計され、棚の高さや大きさなども収納計画されるなど暮らしにあわせたものに作り上げることができました。

また、あわただしい毎日を少しでもスムーズに過ごすことができよう玄関↓ウオークインクローゼット↓洗面脱衣↓キッチンの回遊できる生活動線を確認しています。

ナチュラル志向のご夫婦にぴったりのシンプルでほどよい平屋のお家は子どもが巣立ったあとご夫婦2人でゆっくり過ごすことのできる理想的な住まいです。



「設計・施工」

ひょうご木のすまい協議会 正会員

株式会社 コタニ住研

室温と同じ温度の風なのになぜ涼しい？

これからまた暑い季節がやってきます。まだエアコンが無かった時代、昔の人は風通しのいい浴衣や甚平、麻やゴザでつくった座布団などで工夫しながら、暑さをしのいできました。子ども達は麦わら帽子をかぶって汗をかきながら外で遊び、帰ってくると、まわりに打ち水をした縁側に座って、井戸水で冷やしたスイカを食べたものです。そして風鈴の音を聞きながら、扇子やうちわで涼を採る。これらは風をうまく利用した採涼の方法です。

ところで扇子やうちわは風を起こすことで涼しさを感じさせてくれますが、起こした風が冷たいわけではありません。風はあくまでもまわりの空気と同じです。では、どうして涼しく感じるのでしょうか？

熱いスーブを吹いて冷ますことと同様に、空気は動くことで熱の放出を促進します。つまり汗をかいている皮膚の表面に風を送ると、皮膚の近くにあって、表面温度が下がりはひんやりと涼しく感じられてくるのです。

冬に風が当たって寒く感じるのも同じ原理で、寒さや暑さは温度だけではなく、湿度にも大きく左右されるものなのです。

ひょうご木のすまい協議会

会長 三渡 圭介

木の家  
ひょうご木のすまい協議会  
Vol. 96  
July August 2023

### 地域材活用建築デザインコンテスト in 兵庫 第4回

本コンテストはブランド材として普及が進んでいない兵庫県産木材の利用拡大を目的とし、地域材の従来にはない新しい活用やおもしろい利用や見せ方など工夫を凝らした作品を募集します。居住性やデザイン性に優れた作品はもとより、木材の良さの再発見や利用用途の拡大につながるクリエイティブな作品のご応募をお待ちしております。

主催/ひょうご木のすまい協議会 共催/ひょうご木づかい王国学校 協賛/ひょうご木の匠の会・兵庫県木材協同組合連合会 後援/兵庫県・兵庫県木材協同組合連合会・神戸新聞社

審査員



三澤 文子 (Ms建築設計事務所代表)



神家 昭雄 (神家昭雄建築研究室代表)



吉井 歳晴 (WIZ/WIZ ARCHITECTS代表)



今津 修平 (株式会社Muff代表)

詳しくは『地域材活用建築デザインコンテスト in 兵庫 運営事務局』までお問い合わせください。TEL:0790-64-0150(月～金 10:00～16:00)

エントリー

2023年4月1日(土)～2023年7月31日(月) 締切

作品提出

2023年8月1日(火)～2023年8月19日(土) 締切

公開審査

当日下記のQRコードよりご視聴ください。

2023年11月25日(土) 13:30～16:30

※事前のお申し込みは必要ありません。 ※下記のQRコードは、公開審査前日まで地域材活用コンテストのHPへアクセスします。

■ 地域材アンバサダー 同時募集中 ■

地域材活用コンテストの

- 作品エントリー
  - 公開審査のご視聴
  - アンバサダーのご応募
- はコチラから

